

P2-043

看護師が行う成長発達を促すための関わり方 ～患児に採血を行う際の意識と実践～

中川 亜由美¹、二宮 球美²

¹九州看護福祉大学卒業生、

²九州看護福祉大学

【目的】

患児に採血を行う際の看護師の成長発達を促すための関わり方の意識と実践を明らかにする。

【方法】

小児科に3年以上勤務する看護師20名を対象に自記式質問紙調査を実施。質問紙は先行研究を参考に研究者が作成した。アンケート前にはプレテストを行い、結果に妥当性信頼性が出るように追加修正を行った。調査内容は採血を行う際に意識していることの上位3項目や、採血の際達成感や満足感を与えるために行っている関わりと行動意図等調査した。分析は、Excel2010を用いて単純集計し、自由記述は看護師の意識・行動意図・実践内容についてカテゴリー分けを行い、採血前・中・後の関わりでコード化した。倫理的配慮として、調査対象看護部へ研究の説明を行い内容の検討会議の後許可され実施した。質問紙で回答内容の取り扱いや結果の公表方法、対象の利益不利益を説明し、紙面上で同意が得られた回答のみを集計・分析した。

【結果】

調査期間:平成26年8月～9月下旬。有効回答の回収率60%
回答結果 (n=18) 平均経験年数6.61年、標準偏差:2.97。採血を行う際意識している項目は、1位短時間で終了させ拘束時間を短くする。2位採血の必要性を説明する・子どもに安心感を与える・患児に対してできると励ます。3位子どもが怖がらないように気を紛らわせる・主体的な参加を促す・患児に対してできると励ます。患児の頑張りを認める関わりは、全員が意識して実践していることが明らかになった。他には遊びを取り入れて子どもに近づく、採血の必要性を説明する、主体的な参加を促す、処置の前に十分な説明を行うことを、優先順位を決めて実践している。

【考察】

プレパレーションへの意識は、意識している92%、実践している70%という結果は、子どもの権利条約が批准されて以降、看護師も子どもの基本的人権の尊重を守ってきたと示唆される。頑張りを認める手段や行動意図は複数見られた。今回の調査で、採血の際意識していることの中に成長発達促進という意図は見られなかった。しかし、達成感を与えたり、頑張りを認めたりすることは、患児の自己肯定感を高めることにつながり、結果的に成長発達促進につながるのではないかと考える。これは看護師が看護実践の中で意識していなくても実践することで良い影響がでることや、小児看護で、成長発達を阻害しないという原則があることを潜在的に意識していることで、無意識的に実践しているのではないかと推察する。